

卒業生代表挨拶

本日は、私たち卒業生のために、このような素晴らしい学位記授与式を執り行っていたいただき、心より御礼申し上げます。卒業生を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

私が放送大学で学ぶきっかけとなったのは、看護学校時代の恩師からの「もっと学びを深めてみてはどうか」という言葉です。

恩師は「仕事が忙しい」「時間がない」は理由に、ならいと良く言っていたのを思い出します。言葉を換えれば、

「気持ちが変わり」、「行動が変わり」、「結果が出る」と教えてくれました。

また学習センターという学びの場所が、自宅の近くにあったことも大きな支えとなりました。

私は看護師として働きながら、疲れて机に向かう気力がない日や、思うように学習が進まない日もありましたがそれでも、「少しでも前に進もう」と自分自身に勇気づけの言葉を言い聞かせ、通勤前の時間や休憩時間などの隙間時間を活用し、一日一日、コツコツと学習を続け百二十四単位を取得できました。

コロナ禍を通して、看護師として人の命や生活を支える責任の重さを改めて感じるとともに、知識を学び続けることの大切さを強く実感しました。

それだけではなく特に印象に残っているのが海洋生物学の面接授業です。実際に海へ出て、海の生物を採集し、ウニの人工授精を行ったことは、今でも強く心に残っています。教科書や映像で学ぶだけではなく、自分の目で見て、実際に手を動かして学ぶことで、知識がより身近なものとして感じられました。「学ぶ」ということは、年齢や仕事に関係なく、知らなかった世界に触れ、新しい発見や感動に出会うことなのだ実感しました。

放送大学ではインターネットを通じてデジタルでの学習環境が整い配信は二十四時間実施されライフスタイルに合わせ学習しやすくなり単位試験も自宅で受験できるようになりました。

振り返ってみると、仕事、家事、学業の両立の道のりは大変でしたが、その経験があつたからこそ、時間の尊さや、学び続けることの意味を実感することができました。

この卒業は、私にとって一つのゴールであると同時に、新たな学びへのスタートでもあります。

今日、こうして卒業の日を迎えることができたのは、温かく支えてくださった放送大学の先生方、学習センターの職員の皆様、職場の皆様、友人、家族、そして進学を勧めてくださった恩師のおかげです。

本日、アカデミックガウンを着用出来る事

心より感謝申し上げます。

これをもちまして、卒業生の挨拶とさせていただきます。